

世界の環境担当者は語る

グローバルに広がる事業活動の現場で、環境管理の担当者は環境保全をどうとらえ、どんな取り組みをしているのか…それを知っていただくために、日米欧亜の各事業所で活躍している環境担当者に直接話を聞いてみました。

日本



橋本 慎一
桑名製作所 管理部 主任

「よりよい環境を次世代へ伝え
住みよい世界を残すには
どうすればいいか」

● 2005年度の環境保全対策で重点的に取り組んだことは何ですか？

地域社会との関わりでいえば、NTN環境活動方針の重点課題のひとつとなっている「地域緑化活動への参画」の一環として、2006年3月製作所近隣の公園に従業員のボランティア作業でシバザクラの植え付けを実施したことがあげられます。また、省エネ活動については従来から力を入れ

てきたのですが、取り組み項目にややマンネリ化の傾向が出てきました。そこで外部からの意見を取り入れることで、新たな着眼点で省エネを推進したいと考え、NEDOの助成を受けて省エネ診断を受診し、省エネ改修を進めています。

● 産業廃棄物に関しては、どう取り組んでいますか？

悪徳業者による不法投棄が社会問題となっていますが、桑名製作所では10年以上も前から定期的に廃棄物処理場の現地確認を行っています。これはNTNの廃棄物が適切に処理されているか、不法な行為はないかを実際に現場で確かめるためのものです。

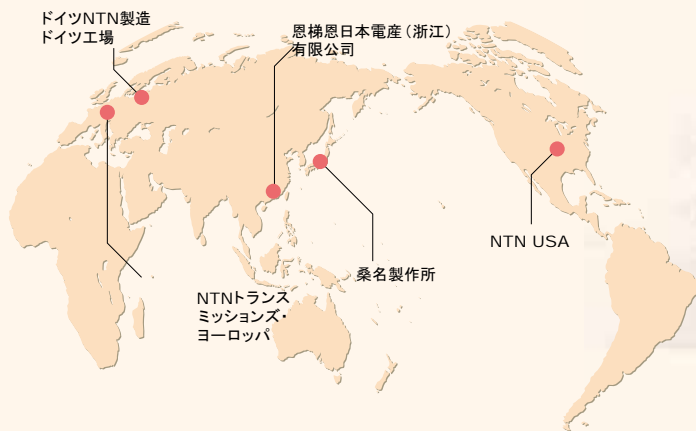
● 環境担当として今後取り組むべき課題は何だと思いますか？

さきほども少しふれましたが、マスコミなどでも京都議定書の発効が大きく取り上げられているように、地球温暖化の防止がこれからのもっとも大きな課題だと思います。企業における積極的な姿勢は当然ですが、生活が便利になるにつれ一般家庭

におけるCO₂排出量も増加の一途をたどっており、各自が生活者としての視点で省エネを実践することもより重要だと思います。世界中すべての人が環境に対する意識を向上させ、真剣に取り組むことが、次世代へよりよい環境を伝え、住みよい世界を残すことができるかどうかのポイントになると思います。

● 桑名製作所では、今後どんな取り組みを進めていく予定ですか？

本年度は昨年省エネ診断の結果を展開し、大型の省エネ案件を実現していきます。また、これまでも駐車場の外灯照明を小型のハイブリッド発電機（風力と太陽光）でまかなうなど自然エネルギーの活用積極的に取り組んできましたが、今後も太陽光発電システムの採用など、クリーンで無限のエネルギーを利用した地球温暖化防止策を実施していきたいと思っています。また、個人参加型環境活動として、緑化ボランティアなどの地域環境保全活動にも、これまで以上に力を入れていくつもりです。



世界の環境担当者は語る

アメリカ



ケビン・ビュラテック
NTN USA EHSマネージャー

「チームワークで環境活動のレベルアップを」

- EHSは環境 (Environment) 健康 (Health) 労働安全 (Safety) の頭文字だそうですね。

はい。EHS委員会は、NTNの全米各事業所の担当者が集まって情報交換を行うとともに、各事業所がEHSに関して協力して活動のレベルアップを図ることを目的にスタートしました。1997年に初めて環境面における法令の順守状況を監査したことが、われわれの活動の出発点となりました。

- 委員会ではどんなことを中心に活動を進めたのですか？

法令順守の徹底はもちろんですが、とくに力を入れたのは全米の事業所におけるチームワークの醸成。それらを通じ、従業員のための教育訓練、情報交換などにも取り組みました。

- チームワークに力点をおいたのはなぜですか？

全米の各事業所が一体となって活動を行うことが最も効率的であると考えたからです。米国の環境規制は有害物の廃棄、廃ガス・廃水、有害化学物質の管理、さらには化学物質の保管や輸入に関わるものまで広範囲に及んでいます。こうした規制に適切に対応するため委員会として各事業所が有する情報を一元化し、活用しました。結果として、各事業所でさまざまな環境関連の法令に効率的に対応できるようになったと思います。

- 委員会では北米各事業所のISO14001マネジメントシステムの維持・支援も行っていますね。

ええ。特に汚染の防止やリサイクル、廃棄物処理に至る前段階での資源の節約に力を注ぎました。このような取り組みだけでも多大なコスト削減につながったと思います。

- その後、委員会は健康や安全にまで活動範囲を拡大し活動していますが、これまでの取り組みを振り返ってみてどう感じますか？

各事業所ではこの10年間で、規制順守を徹底するとともに、環境負荷を大幅に軽減するなど、顕著な成果を上げています。それが評価されて、汚染防止や優れた環境活動に与えられる州知事表彰をこれまでに各事業所合わせて5度も受けました。こうした成果はそれぞれの事業所とそこに働く従業員の努力によってもたらされたものであることはいうまでもありません。

- EHS委員会はまもなく結成10周年を迎えます。最後に今後の抱負を。

今後はこのチームワークの伝統を米国内に留まらせることなくNTN日本との連携へと広げ、グローバルに協力し合って環境負荷の一層の低減を図っていきたいと思います。



フランス



エステル・ギヨウム
NTNトランスミッションズ・ヨーロッパ (NTE) 人事部 環境・労政課長

「環境は一人ひとりの問題であると同時に全員が考え、行動すべき問題」

- NTEでは環境問題をどうとらえていますか？

環境は従業員一人ひとりが当事者意識をもって取り組むべき問題ですが、かといって個人だけで対応できるというもので

ありません。環境担当部門の役割は環境を改善するための基本方針、行動計画などを提案することですが、その計画を達成するには当社の従業員の全員が参画することで初めて可能となります。つまり、環境は一人ひとりの問題ではあるけれど、同時に全員が考え、行動すべき問題であるということです。

- 全員参加ということですね。具体的な事例がありますか？

ゴミの分別収集をあげることができると思います。分別収集をきちんと行うことによって、一般ゴミ (混合ゴミ) の量を減らすことができます。NTEでは過去3年間、従業員が職場においてゴミの分別を推進してきました。その結果、産業廃棄物の大幅な削減につながったのです。

- ゴミの分別では、ほかにどんな取り組みをしているのですか？

従業員が廃棄物を丁寧に選り分けたあとは、回収ゴミを可能な限り専門センターに運び、有効な資源として再生するように要請しています。

また、職場で使用した手袋は回収、洗濯し、繰り返し使用しています。社内で使う手袋を長持ちさせることにより、この種の廃棄物の発生を抑制しています。

- 2006年の新たな環境目標は？

製品1個当たりの廃水・廃油を5%削減、水使用量を5%削減、電気消費量を現状維持、NTE全体のガスの消費量を3%削減するなどの目標を設定しました。これらの環境目標は美しいポスターにして、工場内に掲示しています。

ドイツ



ヘルガ・ペトラシク
ドイツNTN製造ドイツ工場 (DMF)
人事部長

「大切なのは環境保全のために自ら何ができるのかを学ぶこと」

● DMFでは従業員の環境教育にどう取り組んでいますか？

従業員はあらゆる環境問題について徹底的な教育を受けます。新入社員研修、定期教育、社内外における専門研修などで構成された総合的な環境教育システムを採用しています。それらの教育を通じ、従業員は環境意識を高めるとともに必要な知識を身につけ、環境保全のために自らどう取り組めばいいのか、ということ学びます。

● 従業員向けの環境教育マニュアルはどのようなものですか？

すべての新入社員は入社したその日に環境教育マニュアルを手に入れます。そこには環境の基本理念や経営トップが定めた環境方針、毎年取り組むべき年次環境プログラムなどが書かれています。これらのうち環境方針がめざすもの、たとえば『当社は、当事業、環境、従業員の将来を守る環境、健康、安全方針を追求することを表明します』『当社は資源、エネルギー、水の節減に努め、廃棄物削減、リサイクル率向上を追求することを表明します』などの宣言を工場内の掲示板にも貼り出し、すべての従業員が日頃より確認できるようにしています。

● 環境問題に対する責任体制はどうなっていますか？

私は環境管理全般について責任を負っていますが、社内には私以外にホルスト・ギレス（環境と廃棄物）、ウルリッヒ・レフラン（労働安全）と、それぞれ責任者がいます。この3人は環境や安全問題についての取り組みや仕事、教育内容などを熟知しており、日々の従業員からの質問にも的確に答えています。

● ドイツは法的な規制が非常に厳しい国だという印象がありますが。

その通りです。ドイツは環境保護への関心がきわめて高い国で、膨大な数の環境関連の法律が制定されています。それらの法律はドイツ政府あるいはEUの共通政策を受けて定期的に改訂され、環境管理責任者はそのつど新しい法律について情報入手し、それを速やかに社内展開しています。

● EUによるRoHS指令などへの対応も、そのひとつですね。

DMFでは有害化学物質と廃棄物の管理がとくに重要な課題になっており、これらについては従業員に特別の教育を実施しています。教育終了後、彼らが有害物質と廃棄物の管理についてきちんと理解しているか、職務の重要性について認識が十分かを一人ひとりに確認し、管理のミスやトラブルが発生しないように万全を期しています。



中国



顧麗勤
恩梯恩日本電産（浙江）有限公司 (NNSC)
総務部 総務課長代理

「環境への取り組みを通じて社会に貢献できる活動をしたい」

● 環境にどんな姿勢で取り組んでいますか？

NNSCは昨年1月にISO14001の認証を取得し、環境への取り組みを始めました。設立当初より、NTNの環境基本理念に基づき、環境負荷低減をめざし、社会と調和

して産業界の発展に貢献できるように努力を重ねています。

● もう少し具体的に教えてください。

NTN環境方針や環境に関係するポスターを掲示し、日頃から従業員の意識に働きかけを行うとともに、新入社員教育や外部機関での研修などを通じて、社員の環境保全意識を高めるような活動を推進しています。

また、工場における環境側面を正しく評価・識別するとともに、それらに基づいて適切な目標設定や管理を徹底しています。例えば廃棄物管理においては、危険物、リサイクル資源、埋め立て用等に分別回収することにより、資源の有効活用を図っています。

● そのほかにはどんな取り組みをしていますか？

ムダをなくすことです。例えば節水や

節電を行い、水や電気の使用を低減することも重要な課題だと思っています。

● 社外の環境に直接的な影響を与えかねないものに対してはどうですか？

毎日の生活排水、工業排水、工場などからの騒音や排気など環境汚染物質などに関しては環境測定を定期的実施し、有害物を排出していないか監視活動を続けています。このほか、消防訓練など災害発生時に役立つような訓練活動も日頃から怠ることなく、積極的に実施しています。

● NNSCの環境活動は2年目に入りますね。

はい。環境管理の責任者として会社だけでなく、広く社会にも貢献できる活動を推進していきたいと考えています。